

# 議員研修報告書

議員研修における調査結果について、下記の通り報告いたします。

平成29年2月13日

光市議会議長 中村賢道様

光市議会会派『とうこう会』

代表 中本和行

議員 畠堀計之

議員 西村憲治

議長 中村賢道

議員 林節子

議員 木村信秀

議員 萬谷竹彦

## 記

1. 研修年月日 平成29年1月26日～1月28日
2. 場 所 東京都練馬区・茨城県常陸太田市・東京都中央区
3. 調査結果 別紙のとおり

# とうこう会視察報告書

日 時	平成29年1月26日(木) 14時00分～15時30分
調査市名	東京都練馬区
テーマ	①高齢者等ごみ出し支援事業「アシスト」について
調査市人口・面積	720, 915人 48. 08km <sup>2</sup>
市議会議員定数	50名 (5常任委員会)
概要	<p>東京都練馬区は高齢者や障害者世帯を対象に、自宅にため込んだごみの片づけや分別を手助けする事業を2014年度から開始をしました。足腰が弱い高齢者らの生活を支援すると共に、住宅敷地内にごみをため込む「ごみ屋敷」の発生も防ぐ狙いがあります。</p> <p>質問①目的を教えてください。</p> <p>ごみ出しが出来ずに住居内にため込んでしまうと、住居の衛生問題になると共に、近隣住宅に迷惑をかけることになるため、その対策は福祉部、健康部、環境部にとって共通の課題です。この事業は、三部の連携事業として対象世帯の生活環境を改善し、地域の良好な住環境を保全するのを目的としています。</p> <p>質問②処理費等、事業の運営方法について教えてください。</p> <p>住居内の分別および運び出しについては、本施策業務として無償で行います。(袋詰め、分別、片づけは委託、収集は職員が行います。)</p> <p>廃棄物処理手数料については、45L袋1つにつき、200円頂きます。生活保護受給者については、免除処理を行っています。</p> <p>質問③対象となる方の要件はありますか。</p> <p>高齢者または精神障害者等、その他、区が判断し認めた世帯となります。</p> <p>質問④実務的な流れを教えてください。</p> <p>まず、生活実態の把握から始まります。その後、生活環境改善で「アシスト」以外の方法も考えます。その上で、対象者の決定を行い、清掃事務所へ依頼します。その後は、福祉事務所、保健相談所職員立会いのもと、現状確認のための下見をし、実施します。</p> <p>質問⑤課題がありましたら教えてください。</p> <p>減免対象者外の生活困窮者等の支援方法を検討しなければならないと思っています。</p> <p>○人口密度が高い地域でこそ可能な事業なのか、そうではないのかを判断する必要があると感じました。これからもしっかりと取り組んでいきたいと思えます。</p>



練馬区議場にて

日 時	平成29年1月27日(金) 13時00分～15時00分
調査市名	茨城県常陸太田市
テーマ	①「子育て上手 常陸太田」について
調査市人口・面積	51,578人 371.99km <sup>2</sup>
市議会議員定数	20名 (3常任委員会)
概要	<p>少子化・人口減少対策として子育て世代等に魅力ある施策を展開するため、新婚家庭への月額2万円の家賃助成、子育て世帯の住宅取得に新築20万円の助成事業など、様々な子育て支援施策を行っています。これらのPRのため、「子育て上手 常陸太田」をキャッチフレーズに、メディアやJR車内・高速バス車体への広告掲載を行うとともに、市民の口コミでの施策をPRするため、「子育て上手 常陸太田推進隊」を組織し活動しています。</p> <p>常駐人口の減少、高齢化率の上昇等、常陸太田市は課題が山積していました。対処法としては ①短期的には社会減の抑制を図り、長期的に出生数を増やす施策の展開が必要 ②転出入の多くは、20～30代の若者世代が周辺6市村へ移動 ③20～30代の若者世代が魅力を感じるまちづくりを推進することで若者世代を呼び込む ④具体的には、就労、結婚、妊娠・出産のしやすい環境を総合的に整備 を行い、長期的な出生率の向上に寄与することを結論付けされました。</p> <p>質問①家賃補助について詳しく教えてください。</p> <p>市内の民間賃貸住宅に住む新婚家庭に対し最大3年間、月2万円の家賃補助を行っています。市の調査によると、申請者の約7割がこの制度をきっかけに市内に転居を決めたというデータもあります。また、市内で住宅を購入した子育て世帯などには、最大20万円を助成しています。この交付者を対象に、地元の銀行が「子育て支援住宅ローン」を実施し、金利の引き下げを行っています。このローンに対しての利子補給は行っていません。</p> <p>質問②乳児おむつ購入費助成について教えてください。</p> <p>乳幼児1人につき2万円を上限に、おむつの購入費を助成するものです。購入した店のレシートとともに申請して頂ければ助成対象となります。平成26年度は273件、平成27年度は274件の申請があり、助成いたしました。</p> <p>○近隣自治体との人の取り合いになってしまう課題もありますが、様々な助成制度があり、素直に感動しました。これからも積極的に取り組んでいきます。</p>



常陸太田市議場にて

日 時	平成29年1月28日(土) 10時30分～12時00分
調査市名	東京都中央区
テーマ	①山口県アンテナショップ(日本橋プラザビル)の視察
調査市人口・面積	149,640人 10.21km <sup>2</sup>
市議会議員定数	30名 (4常任委員会)
概要	<p>おいでませ山口館は、山口県の情報ターミナルとして、県産品の即売事業、県産品の首都圏への情報発信、百貨店催事への参加、観光情報発信、UJIターンに関する相談事業を展開しています。</p> <p>現在地(日本橋)へ平成14年6月に移転開設。平成21年4月にリニューアルオープンし、店舗面積を107㎡から156㎡の拡充、民営化とする等の運営体制の変更や商品アイテム数の拡充を図っています。</p> <p>平成29年 1月17日(火)～21日(土)には、「周南地域 うまいっちゃフェア」が開催され 平成29年 1月25日(水)～28日(土)、視察にいった日に「きんさい柳井物産フェア」が、開催されていました。</p> <p>また、東京アンテナショップ薩長同盟スタンプラリー、東京アンテナショップ薩長同盟を記念して、「かごしま遊楽館」「まるごと高知」「おいでませ山口館」共通スタンプラリーを開催していました。アンテナショップで商品を500円以上お買い上げごとにスタンプを押印、計9個(各店スタンプ3個)のスタンプをフルマークすると、3県の人気商品が入った「薩長同盟詰合せセット(抽選で20名様)」が当たる応募券になるものです。</p> <p>様々な事業を企画し展開していますが、光市のPRが少ないとも感じました。</p> <p>これからも、光市そして山口県のシティセールスの部分にも、力を注ぐべき課題だと思います。</p>

所感（中本 和行）

[練馬区の高齢者支援事業「あしすと」]

練馬区は、東京の北西部に位置し、面積は48.08 km<sup>2</sup>、人口72万人の都市であり、ほとんど高低差のない、なだらかな街であります。

高齢者支援は、ゴミ出しが出来ずに住居にため込んでしまい、衛生問題を含め近隣に迷惑となる事から、福祉、健康部および環境部の三所管の連携事業として取り組んでいます。

対象は、高齢者や障害者等のみの世帯とし、集積所に搬出が困難であると区が判断した場合で、まず支援が必要な世帯を把握し、必要と認め了解を得て、清掃事務所「あしすと」に依頼する。問題がなければ「あしすと」と職員50人で分別作業を行い、処分をする。処理費は無料ですが、廃棄物手数料は有料です。

高齢化社会になり、莫大な費用がかかり大変な事業です。職員が大変なごみ処理を積極的に行っている。私たちの街も検討する時期が来ているかなと思います。

[常陸太田市 子育て上手]

全国的に、地方自治体を取り巻く社会環境は、少子高齢化や人口減少など様々な課題がある中、人口減少に歯止めをかけようと、太田市独自の子育て支援策について視察をいたしました。

後期基本計画で優先的に取り組んでいく最重要施策に「ストップ少子化・若者定住戦略」を掲げている。

魅力あるまちづくりは、就労、結婚、妊娠、出産や子育てしやすい環境を作り出生率の向上をめざす。必要な財源は惜しまない。

主な制度を紹介します。

まず、新婚家庭の家賃助成、住宅促進助成、子育て世帯の増改築助成、妊婦医療費助成、特に目立った物は、給食費を2分の1に減額、乳児のおむつ購入費助成です。等々多くの事業に取り組んで、助成後の市内移住率は88%と成果を上げています。

若者世代をターゲットに、雇用と出会いの場、経済の負担軽減、両立支援策、子育てしやすいまち 常陸太田の車内広告、マスコミに広告、子育て支援推進隊の88名に委嘱し、子育て支援策をまとめた小冊子を市内外のイベントで配布するほか、口コミなどでもPRして定住人口の拡大を後押しするなど、行政と市民と協働の取り組みは感動しました。

私たちの街も積極的に取り組んでいかなければなりません、勉強になりました。

[アンテナショップ日本橋]

「おいでませ」山口館は、日本橋のビジネス街あり、伝統の品から山口県の観光の情報を発信していました。おもてなしとふれあいを大切に豊かな自然の恵み他、歴史や文化と、新たな山口の発見ができる。

下関のふく、かまぼこやうになどの水産加工品、農業加工品、民芸品他、数多くの品目を揃えています。

観光案内、寄付金コーナーもあります。当日柳井市の職員が柳井の特産品と金魚提灯の作り方を実践していた。残念ですが光市の特産品などは扱っていなかった。積極的に光市にある農、水加工品等を持ち込み販売する姿勢が必要であります。今後一層の光輝く街の情報発信に努めなければならないと思った。

所感（畠堀 計之）

#### 1. 高齢者等ごみ出し支援事業「あしすと」東京都練馬区

ごみ出しができず住居内に溜め込むことで住居の衛生問題であるとともに、近隣住宅への迷惑となることから、福祉部、健康部、環境部の3所管の連携事業として、対象世帯の生活環境を改善し、地域の良好な住環境の保全を目的に、高齢者等ごみ出し支援事業「あしすと」を実施している。対象世帯については、上記の3所管の立場から総合的に判断し決定されている。

一方で、ごみの溜め込み防止や再発防止を目的とした生活指導等にも、積極的に取り組んでおり、250名の清掃事務所職員の内、50名が生活指導を含めた啓蒙活動を専門に実施するなど、行政として、ごみについて単なる収集型ではなく管理監督型の事業が推進されており、光市の今後の取り組みとしても参考になった。

#### 2. 「子育て上手」茨城県常陸太田市

常陸太田市では、人口減少が大きな課題となる中で、私生活に影響を持つ女性にターゲットを絞り、仕事は他市町でも可として市内に定住、子育てがし易いよう通勤をはじめとするインフラの充実に取り組まれている。国や県からの補助金等の対象となる事業を幅広く調査研究の上、実施されている。例えば、新婚家庭の家賃補助（月2万円）や住宅取得促進事業（新築20万円）の住宅への補助、乳児おむつ購入費助成や子育て世帯等増改築助成など子育て支援、さらには子育て支援施策のPRを担当する市民組織の設置やパンフレット作成、JR各駅・電車内テロップでのPRにも積極的に取り組まれていた。その成果、指標の一つとして、出生者数と小学校入学者数の比較では、平成28年度の入学者数は330人で、その出生年となる平成21年の出生者数266人に対して64名増となっており、市外からの子育て世代等の移住が考えられる。

常陸太田市での「子育て上手」に関する諸施策については、いずれ周辺市町、そして全国的な動きになるものと推測することから、光市においてもこの先例をしっかりと参考に早期に、導入を図るべきだと考える。

#### 3. 「アンテナショップを活用した光市シティプロモーションの研究」おいせませ山口

館（東京都中央区）

おいでませ山口館はで販売できるのは山口県物産協会会員の商品が対象で、ここの商品の価格や売上予測などを審査の上、店頭に並ぶこととなる。同ショップには、山口県県内からの特産品などが店頭に並んでおり、相当数の来客に販売されているものの、光市の民間事業者の製品は非常に少なかった。また、同館では年間4～5回程度、山口県下の市による販売フェアが行われている。当日は柳井市フェアが行われており、市の職員による柳井市の物産品の販売と金魚ちょうちん作りが行われていた。

光のPRという観点から、行政として民間業者とともに取り組むことが必要ではないかと考える。

所感（西村 憲治）

<練馬区・高齢者等ゴミ出し支援事業「あしすと」>

「あしすと」の制度実施の件数、年間250件から300件を、直営職員50人（都から250人の現業職員が区に配置換えされた）で実施していると聞き、需要の多さにビックリしました。分別袋詰めは、業者に委託するとのことでしたが、ほぼ毎日ゴミかたづけ業務があるとわかりました。ちなみに、低所得者・生活保護世帯・身寄りのない孤独死の方対象なのでお金はほとんどいただいているのが実情でした。

莫大な経費のはずですが、「回答はなく」、お金には代えられない公共の福祉が優先とのことでした。

福祉・環境・市民部の協力区対応は、良い取り組みと感じました。

<常陸太田市・子育て上手>

都心から特急電車乗り継ぎで3時間、やはりかなりな距離を感じました。

合併後急速に人口が減少（1万人減）、背に腹は代えられない切迫感を感じました。

支援事業はありとあらゆるものに取り組み10億円近い予算を支出していましたが、一般会計予算規模は230億円なので、頑張っているなど感じました。

特に関心致しましたのは、往復の電車の中に電子公告版にしつこいくらい具体的な子育て支援広告が流れ続けており、関心致しました。

<東京都千代田区・「おいでませ山口館」>

折しも柳井市フェスタ開催中で、午前中にも関わらず大勢のお客様ににぎわっておいりました。売れ筋商品もたくさんあり、フェースブックやブログ、ラインなどで通信してリピーターのお客様の確保し結構な成果をあげていました。しかし、県内14市中5市がフェスタを開催しているそうですが、経費節減で撤退が続いている模様です。

ちなみに、わが町の販売商品は、「宮尾製菓のクッキー」だけでした。

光市も山口県内 14 市と連携をして、フェスタの開催や販売商品の委託支援に力を入れるべきと考えます。

所感（林 節子）

1月26日 東京都練馬区の高齢者ごみ支援「あしすと」を視察。

練馬区当局職員250名（200名収集業務）（50名地域係）が携わる。

高齢者・障害者世帯を対象に、自宅に溜め込んだごみの片づけや分別を手助けする事業である。対象者の現状に立ち会うことにより、身体・精神のケアを早期発見し、環境部・福祉部・健康部が連携して良好な住環境を提供している。利用料は生活保護受給者を除き有料である。

練馬区では、ごみの分別の際、家庭から出る大量の廃油（食油）を収集し、精製して自動車燃料に使用している。

1月27日 常陸太田市「子育て上手 常陸太田」を視察。

少子化・人口減少対策として、子育て世代の若者定住を促進するための取り組みである。対象者への助成は、「新婚家庭への月額2万円の家賃」、「住宅取得に新築20万円」、「おむつ代金2万円」、「医療費中学3年生まで（所得制限なし）」、「保育料の減額」など多くの支援対策を行っている。

1月28日 東京都中央区アンテナショップを活用した、光市シティプロモーションの研究について。

「おいでませ山口館」情報ターミナルとして、伝統の逸品から観光情報まで、山口県の「今」を発信している。当日は柳井市が甘露醤油をはじめ、多くの品物をPRしており、多くのお客様に紹介していた。中でも光市の情報は少なく、PRの乏しさを感じた。

所感（木村 信秀）

・東京都練馬区「高齢者等ごみ出し支援事業（あしすと）」について

高齢化が進む中、独居によるごみ出しが出来ずに住居内にごみをため込んでしまう等、衛生問題になると共に、近隣住宅に迷惑をかけるという問題に対し、所管を超え（環境部、福祉部、健康部）一体となってケアを原則無料という方式で行っておられた。光市としてもすべて同じくとはいかないが、参考として政策に結びつくよう提言をしていきたい。

・茨城県常陸太田市「子育て上手 常陸太田」について

少子化に歯止めがかからない昨今、地方創生による国からの補助事業はもちろんのことながら、行政トップダウンによる一般財源措置による、様々な対策をとられ定住促進やUIJ ターンを実現され、効果が発揮されている。光市においても活用できる部分を研究し、政策提言につなげていきたい。

・「アンテナショップを活用した、光市シティプロモーションの研究について」

山口県のアンテナショップを見学させていただき、光市として情報発信の場としてなかなか生かし切れていない現状を知ることが出来た。今後、今以上に情報発信して、わが市の発展につなげていく参考としたい。

所感（萬谷 竹彦）

☆高齢者等支援事業「アシスト」

・東京都練馬区

ごみ出しが出来ずに住居内にため込んでしまうと、住居の衛生問題になると共に、近隣住宅に迷惑をかけることとなる為、どのように対処するべきか、課題だったと聞きます。この「アシスト」という事業は練馬区の福祉部・健康部・環境部の連携事業として対象世帯の生活環境を改善し、地域の良い住環境を保全することを目的としています。対象世帯とは、高齢者または精神障害者等、のみの世帯で排出すべきごみを集積所に排出出来ないと区が判断した世帯、その他、区が必要と認める世帯であり、その支援に関しては、福祉部・健康部が把握し、当世帯または親族の了解を受けたのち、「アシスト」への依頼を行います。清掃した後も、健康部がアフターケアの役割を担い、再発防止、健康管理をするという役割分担も出来ていました。三つの部が連携を取り合い実施している事業であり、また、役割分担もしっかりしている、非常に重要なことだと感じ、そして今まで以上に光市も取り組まねばならない課題とも思いました。また、練馬区は人口が多い半面、面積が広くない、いわば人口密度が高い行政区であり、光市がそのまま真似は出来ない事業だとも思いました。高齢化社会が進む中、独居老人の世帯も増加していきます。空家対策と合わせて、早急に取り組まなければならない課題だと感じました。

☆子育て上手 常陸太田

・茨城県常陸太田市

常陸太田市の課題として、少子化、人口減少そして高齢化率の上昇が上げられています。平成16年の人口は60,806人だったものが平成28年には51,454人。高齢化率は平成16年は25.5%、平成28年では35.0%と急速に進行し

ています。この現象の対応策として、現市長のもと掲げられたのが、就労、結婚、妊娠・子育てのしやすい環境を総合的に整備し、長期的な出生率の向上に寄与させるという総合的な計画、事業を展開していました。特に興味を持った事業の1つに、平成22年から始めている、新婚家庭の家賃助成。最大2万円/月の助成を行うものですが、申請者の約7割が当制度がきっかけになったと回答しているようで、平成27年度だけを見ても、75件の申請者がいることから、かなりの効果をあげている制度だと思いました。また当初は1万円/月だった助成が、平成24年から2万円に増額したことも特筆すべきものだと思います。また、子育て世帯等が市内に住宅を取得した場合に対しての助成に、住宅取得促進助成があります。

当初は固定資産税を半額助成するものでしたが、メリット感が伝わりにくいという事で、平成25年からは最大20万円を助成するやり方に変更されています。他にも様々な施策があり、またそのPR活動にも余念がありません。パンフレットの充実、推進隊の組織化、公共交通機関でのポスター等の貼布。そして、男女の出会いの場を作る目的で、結婚相談センター「YOU愛ネット」の運営（成婚数108組）等、様々な取り組みを行っていることが分かりましたし参考になりました。また、助成等もいいと思われる発想があれば、すばやくそちらの方向へ転換する機動力も参考になりました。これからもしっかり頭にいれて、取り組んでいきたいと思っています。

#### ☆山口県アンテナショップ

・東京都中央区 日本橋プラザビル1F

光市は年に1回、東京にてふるさと光の会を開催しており、東京での山口県、そして光市のPRがどのように行われているか、そして他県はどのように行っているかを総合的に視察しました。ちょうど、柳井市がブースを開いており、柳井市の職員さんたちが柳井市のPR（金魚ちょうちん作り等）を行っていました。様々な山口県の商品が並んでいましたが、光市の物は、製菓会社のもののみでした。聞くところによると、アンテナショップと出品したい業者が直接やり取りを行う方法をとっているそうです。とは申しましても、行政側も何かしらのアドバイス等、進言できるような仕組み作りも必要だと感じました。光市をもっともっとPRして、Iターン、Uターンといった移住定住につなげていければと思います。

所感（中村 賢道）

① 高齢者等ごみ出し支援事業「あしすと」

高齢者や心身に障害を持つ方などで、集積所にごみを排出できない世帯の生活環境を改善し、地域の良好な住環境を保全するために実施されている。支援制度には、共助・公助があると思うが、自治体を実施する高齢者や障害者世帯へのごみ出し支援は、全国的に見てもまだまだ少ない状況と聞く。高齢化に伴い、ごみ出しが難しくなる世帯の増加が予想されるし、今はその多くが介護保険や障害者の支援制度のなかでカバーしていることが考えられる。「あしすと」事業は、複数の所管の行政職員が直接支援を行っており、公共の福祉の先駆的、画期的事例と捉えていいと思う。

一方で行政が支援する公助の制度は、コストが膨らむことが懸念されることから、光市も含め、財政難に直面する自治体にとっては、近隣の人や自治会などによる共助の仕組みを早急に検討する時期にきているものと思う。当面何ができるのか、問題をどう解決していくか、財政、環境、福祉といった様々な側面から施策を考えるうえで視察は有意義であった。

## ② 子育て上手 常陸太田

常陸太田では少子化、人口減少対策として若者定住を促進させるため、主に子育て世代をターゲットとして各種施策やPRを行い、人口5万人の維持、年間出生数300人を目指すために、47事業（約9億4千万円）をかけて、様々な事業を実施している。特におむつ代2万円をプレゼント、18歳までの医療費がお得、住宅新築20万円のプレゼント等、至れり尽くせりの事業である。ただ、支援の内容は、浸透しているものの、現状のまま事業が継続できるのか問題も残る。

光市においては、常陸太田市のような圧倒的な経済的支援は少ない中、新年度においては、通院医療費無料化の対象年齢引き上げや、新婚家庭の移住定住促進等、おっぴい都市宣言のまちにふさわしい支援、また身の丈に合った事業を知恵を出しながら実施していくべきだと思う。

## ③ アンテナショップを活用した光市プロモーションの研究について

視察中に、柳井市による「きんさい 柳井市物産フェア」が開催されていた。フェイブック掲載によるPRの成果にあったのか、盛況で人も多かった。残念なことに光市の商品は1社1品の展示であった。山口県13市のうち8市は財政的な理由により脱会しているとの説明があり、あり方の検討を要すると思う。しかしながら、光市の情報を発信することにより、市のイメージ・ブランド化による産業の活性化を牽引していく手立ても重要な課題である。